

## 1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 22年 4月 30日

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4675500062
法人名	有限会社 ふれあい企画
事業所名	グループホーム みぞべ (のんびり)
所在地	鹿児島県霧島市溝辺町崎森1891-15 (電話) 58-9220
自己評価作成日	平成22年4月8日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kagoshima-kaigonet.com">http://www.kagoshima-kaigonet.com</a>
-------------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会
所在地	鹿児島市城山一丁目16-7
訪問調査日	平成22年4月27日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様との会話の時間を大切に日々穏やかにゆっくりゆったりと楽しく過ごして頂けるように取り組んでいる。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

## 事業所の優れている点

○地域密着型サービスとしての事業所として、町内会の美化作業や行事に積極的に参加している。  
○食事の時間は、食卓に職員が一緒に着き、おしゃべりしながら家庭的な雰囲気作りに努めている。また、介助者にはさり気なくサポートしている。  
○各ユニット、利用者職員がさり気ない声かけ、介助をしながら穏やかに時間が流れているように感じられる。

## 事業所の工夫点

○外出傾向のある方の服装を毎朝記録して、搜索の時に分かりやすいように工夫している。  
○天気の良い日には、出来るだけ敷地内で外気浴をするように心がけ、散歩等、外気浴時に、2ユニットの職員が協力し合って車椅子の方も出来るように工夫して支援している。。



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	理念を目に付く所に貼りいつでも言える様になっている。理念を読み理念の実践に向け取組んでいる。	ふれあい企画の基本理念の中に地域密着型サービスとしての理念を作り上げている。職員は、地域の方々と交流に心がけ、利用者と散歩したり自治会の行事に参加するなど実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩途中や買物の際に声かけを行い交流を図っている。また、地域の美化作業など参加するようにしている。	自治会に参加して、職員が、地域の美化作業・花見に参加している。利用者の介護度が高くなり、ボランティアの受け入れをして、利用者は、地域の方々と交流をしている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	運営推進会議の時など情報を提供し活かしていただけるように取組んでいる。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の際は利用者の状況等の報告を行っている。また、地域や家族の方の意見もとり入れるようにしている。	年6回開催されている。会議の内容は、事業所の報告がなされている。出席者から避難訓練時又はその誘導時に防災頭巾が必要であることや応援者も軍手・長靴・懐中電灯等も用意することの意見もあり、サービス向上に活かしていく予定である。	運営推進会議の出席者を固定化することなく、地域の幅広い立場の方々をメンバーに加え、事業所の具体的な改善課題を話し合い、サービスの向上につながる内容になるように期待します。

鹿児島県 グループホームみぞべ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	市町村主催の健康福祉まつりの準備や大会など参加するようにしている。また、市町村で行われる研修等には参加し連携を図るよう努めている。	霧島市の健康福祉まつりのグループホームのブース作りに参加している。運営推進会議に溝辺支所の職員に参加してもらい事業所の取り組みを伝えている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束に関する勉強会を事業所で実施し職員の共有認識を図っている。又、日々の申し送り時等には日々のケアを振り返り自覚のない身体拘束がないか話し合いをしている。マニュアルを作成し閲覧できるようにしている。	母体のふれあい企画の研修で、どんなことが身体拘束なのか話し合っている。玄関の施錠をしない工夫として、見守りを徹底し外出傾向のある方の服装を毎日記録している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を開き職員へ説明を行っている。又、資料を閲覧できるよう配布している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	勉強会を開き職員へ説明を行っている。又、資料を閲覧できるよう配布している。		

鹿児島県 グループホームみぞべ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約時には疑問点など説明するようにしておりその他にも随時、相談にのるようにしている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>利用者の言葉や態度から思いを察する努力をしている。又、家族からの意見などもとり入れるようにしている。相談苦情などについても受付について入所時に説明している。要望については随時話し合うようにしている</p>	<p>花見・運動会時年二回家族会を開催しているが、家族からの意見が、なかなか出ない状況である。面会時に家族からの要望は、申し送りノートに記入して職員は、共有している。</p>	<p>家族会等で集まる意見や苦情は事業所の運営にとって重要なキーワードです。アンケート等で、家族の意見や要望を引き出す工夫をし、サービスの向上に役立たせることを期待します。</p>
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>ミーティング時等に意見を聞き話し合いを持ち出来る事はとり入れるようにしている。</p>	<p>各ユニットのミーティングでケアに関する意見等を出し合っている。母体のふれあい企画でも、職員のアンケートを実施して、代表者会議で話し合い、業務改善につながっている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>管理者や職員の努力、実績、勤務状況を把握し給与及び賞与等を配慮している。又、職員の資格取得に向けた支援を行っている。</p>		

鹿児島県 グループホームみぞべ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>管理者や職員への勉強会及び研修会は月1回行い外部での研修にも参加させる機会を設けている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>始良伊佐地区グループホーム連絡協議会のネットワークがあり勉強会や他事業所との職員同士の交流などを通じて質の向上を図れるようにしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に面接を行うようにしており入所してからも個別に話を聞き、希望にそうようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談時より家族の困っている内容について他のサービスの説明も行い入所される場合の希望も聞くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた際、他のサービスなどの説明も行い選択できるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	畑仕事など利用者と一緒に話し合いながら行ったりしている。また、一緒に楽しめるように工夫しておく。		

鹿児島県 グループホームみぞべ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		<p>○本人と共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>利用者の状況や日々の出来事など面会時などに連絡行い情報を共有できるようにしている。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>馴染みの友人など面会に来られる。また、入居以前からの病院に行かれたり関わりが継続できるよう努めている。</p>	<p>通院時やドライブのとき利用者の住んでいた地域を通して懐かしんでもらったり、住んでいた地区のがん検診に同行して、懐かしい住民との会話を楽しんでもらうなど馴染みの場、人との関係が途切れない支援をしている。</p>	
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>利用者間の関係を把握しその日の状況に応じ孤立しないよう楽しく過ごせるよう努めている。</p>		
22		<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>退所後も電話など相談がある際には応じるようにしている。</p>		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	個別の思いなど把握するように努めている。	利用者との会話の中からや職員の気づきなどで、思いや意向を把握している。介護計画の更新時にアセスメントを行い把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族に聞くなどして把握に努めており職員間で共有するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々のペース合わせ過ぎて頂き現状を把握しながら有する能力を活かせるように努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメント時には本人、家族、職員の意見を取り入れ介護計画を作成している。又、状態変化時には介護計画の見直しを行っている。	3ヶ月毎に、職員の意見を聞いてモニタリングして評価を行い、本人・主治医・家族・職員の意見を聞き、介護計画を作成している。	

鹿児島県 グループホームみぞべ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>個別に日々の記録を行い情報を共有できるようにしており気づきがあった際には記録を行い介護計画に反映できるようにしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>本人の状況に応じて通院など必要な支援を行なうようにしている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>消防や周辺地域への働きかけを行っている。地域のイベントや活動に参加している。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>入所時にかかりつけ医の確認を行い定期的な受診するようにしている。</p>	<p>家族の希望があれば入所前からのかかりつけ医にしている。受診時の情報は業務日誌にて職員は共有し、同行できなかった家族には電話で報告している。</p>	

鹿児島県 グループホームみぞべ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>健康管理について看護職員と相談しながら随時、医療との連携を図るようにしている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院された場合は必ず退院後の話し合いを行っている。協力医療機関との関係づくりも密に行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化に伴う事業所が対応し得る最大のケアについて説明を行うと共に定期的に話し合うようにしている。</p>	<p>重度化対応に関する指針を作成している。看取りの指針もできているが、現在看とり介護の事例はない。</p>	<p>看取りの指針について、事業所でできることを十分話し合い作成され、利用者や家族のニーズをくみ取りながら、体制を整えていかれることを望みます。</p>
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>救急救命士による研修を行い参加するようにしている。マニュアルの作成も行っている。</p>	/	/
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>避難訓練を定期的に行い地域の方々も災害時の対応など関心を持たれている為に運営推進会議の際など情報提供を行っている。</p>	<p>年4回の避難訓練をしている。運営推進会議で地域の協力をもらえるように話している。夜間時の火災に対して、利用者の介護度の高さ・二階の避難経路の不安が感じられる。災害時に備えてお米・缶詰等備蓄している。</p>	<p>地震時・夜間時の避難誘導の訓練・対応の研修を積み重ね、職員が自信をもって誘導できるようになることを望みます。</p>
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>誘導の声かけや言葉かけ等気をつけて行うようにしておりミーティング時など対応の仕方など話し合うようにしている。</p>	<p>利用者個々の人格を尊重し、利用者同士の会話の仲介をしたり、入浴時に羞恥心のある方は、声かけに気を配り、一人で入浴してもらうなどの対応をしている。</p>	

鹿児島県 グループホームみぞべ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者各々の特性や個性に合わせて笑顔や言動を引き出せるように言葉かけ雰囲気作りを行い利用者に選択して頂けるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その時々本人の気持ちや体調に考慮しながら柔軟に対応する様にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	基本的に本人の意向で決めている。又、希望時には散髪や白髪染めも行っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備や片付けを職員と一緒にし、メニューも好み聞きながら楽しめるように工夫している。又、職員も同じ食事を食べながら食べこぼし等に対するサポートも行っている。	食卓に職員と一緒に着き、さり気なくサポートしながら食事をしている。誕生日には、本人の希望を取り入れるように心がけている。下ごしらえ・片付け等利用者の力を活かして支援している。花見・運動会には、弁当を作って楽しんでいる。	

鹿児島県 グループホームみぞべ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事摂取量は毎食チェックしている。水分も常に気をつけて補給を促している。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>毎食後、口腔ケアの声かけ介助を行っている。又、随時義歯の消毒を行っている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている</p>	<p>日中はトイレ誘導を行い常時、オムツを使用しないですむように支援している。</p>	<p>日中は、排泄記録に時間を記入して、尿意感を察知してトイレ誘導し、布のパンツ使用で支援している。リハビリパンツから布パンツになり入所前より自立に向けた支援ができて利用している利用者もいる。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>食事の際など食物繊維を含む献立を提供したり適度に運動を行って頂くようにしている。</p>		

鹿児島県 グループホームみぞべ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	くつろいだ入浴ができるように一人ひとりのペースに合わせて入浴してもらっている。又、希望される時間帯に入浴できるように努めている。	週3回入浴を計画しているが、希望があれば毎日でも可能である。入浴を拒む方は、声かけの工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠パターンを把握し夜間良眠できるように日中の散歩や外気浴など行っている。又、表情など観察しながら疲れた様子みられる時には休むように声かけしている。		
47		○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師の指示通りに服用できる様に1回分ずつ名前を書き分けて管理している。現在服用中の文献をひとりずつファイルに綴じている。状態変化時には副作用との関連も検討している。		
48		○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事や畑仕事など役割を持ち楽しみを持ちながら過ごせるように支援している。		

鹿児島県 グループホームみぞべ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	近所を散歩したり園庭で過ごしたりしている。買物等の声かけも行っており希望時には出かけたりしている。弁当を持参しての外出やドライブなどの機会を持つようにしている。	天気の良い日には、できるだけ敷地内で外気浴をするように心がけている。散歩等、外気浴時に、2ユニットの職員が協力し合って車椅子の方も出来るように支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	力量に応じて金銭管理を行えるように支援して希望時には買物などの支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	会話の出来る人は電話や難聴などで電話が難しい方は手紙などいつでも使用できるようにしている。又、家族の方にもいつでも電話して下さいとお願いしている。		



鹿児島県 グループホームみぞべ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>談話室にはコタツを置きホールではメダカを育て台所用品も家庭的な物を使用している。音などは状況に応じて声かけを行い配慮するようにしている。</p>	<p>車椅子での誘導がしやすいように、食卓・ソファが配置されている。利用者は、自分の落ち着く場所が決まっており、居心地よく過ごしている。音や季節により光の刺激にも配慮がなされている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>冬場はコタツやソファで暖かい日は園庭にベンチで過ごされている。</p>	/	/
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居時には今まで使用していた物を持ってきて下さるように話をしてしている。又、持参したものを使用してもらっている。</p>	<p>タンス・椅子・家族からのプレゼントなど持ち込まれ、利用者個々の居室が作られている。布団を片付ける習慣の方は、ベッドでも布団を片付け本人が落ち着いて過ごせるように支援している。</p>	

鹿児島県 グループホームみぞべ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>利用者の状態に合わせて手摺やトイレなど居住関係が適しているか見直し安全確保への配慮を行っている。又、状況にあわせて環境整備にも心がけるようにしている。</p>		

## V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	開設時より運営理念及びユニットの基本理念を掲げており、毎朝の申し送り時に復唱し日々の仕事で実践するようにしている。	※複数ユニットの外部評価結果は最初のユニットの評価表に記入されています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の花見や美化作業には積極的に参加し、散歩途中や買物時には声かけを多く持ち、交流を図るようにしている。		
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	運営推進会議の時に利用者の方の状態を報告し、緊急時の地域の方への協力など依頼している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の際は、利用者の状況などの報告を行い、地域の方や行政の方、家族からの意見も取り入れるようにしている。		

鹿児島県 グループホームみぞべ

5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	<p>市町村の主催する健康福祉まつりの準備や大会など参加している。又、市町村で行われる研修会などには積極的に参加し連携を図るようにしている。</p>		
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束に関する勉強会を事業所で実施し、職員の共有認識を図っている。又、日々の申し送り時等にその日のケアを振り返り、自覚しない身体拘束がないか話しをしている。マニュアルを閲覧できるようにしている。</p>		
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>勉強会を開き、職員への説明を行い理解を求めている。又、マニュアルを閲覧できるようにし配布している。</p>	/	/
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>勉強会を開き、職員の理解を深める様にしている。又、マニュアルを閲覧できるようにしている。</p>	/	/
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約時に質問や疑問点等について説明を行う様にしており、その他にも随時相談にのるようにしている。</p>	/	/

鹿児島県 グループホームみぞべ

10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>利用者や家族の言葉や態度から思いを察する努力をしている。又、その時々利用者の不安、意見等はユニット毎に話し合う様になっている。</p>		
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>申し送り時やミーティング時等に、意見を聞き話し合いを持ち出来る事は取り入れる様になっている。</p>		
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>運営者は管理者や職員の努力、実績、勤務状況を把握し給与及び賞与等を配慮している。又、職員の資格取得に向けた支援を行っている。</p>	/	/
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>管理者や職員への勉強会及び研修会は、月1回行い外部での研修にも参加させる機会を設けている。</p>	/	/
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>他事業所との職員間同士の交流や連絡協議会での話し合いの場を通じて質の向上を図っている</p>	/	/



II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	○初期に築く本人との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に面接を行う様にしており、入所されてからも個別に話を聞き、希望に添うようにしている。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に面接を行う様にしており、入所されてからも近況報告し、不安や心配事が軽減できる様に、又希望に添う様にしている。		
17	○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談などを受けた際、他のサービス利用等の説明も行い、選択できる様にしている。		
18	○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	畑作りや家事など利用者と一緒に話し合いながら行ったり、教えてもらう等一緒に楽しむ事が出来る様に工夫している。		
19	○本人と共に支え合う家族との関係  職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人、家族の思いや状況を見極めながら外出等で家族と一緒に過ごす事を勧めたり、行事に家族を誘ったりしながら、より良い関係の継続に努めている。		

20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>馴染みの友人など面会に来られる。又、入所前からの病院に行ったり、地区検診に行ったりして、関わりが継続できるように努めている。</p>		
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>家事や買物・散歩・外出・レクリエーション等の日常生活行為の中で助け合い、協力できる場面を作っている。</p>	/	/
22		<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>退所後も電話での相談がある際には対応する様にしている。</p>	/	/
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>日々の関わりの中で声かけを行い、把握に努めている。意思疎通が困難な方にはご家族や関係者から情報を得る様にしている。</p>		
24		<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>本人や家族に聞く等して把握に努めており、職員間で共有出来る様にしている。</p>	/	/

鹿児島県 グループホームみぞべ

25	<p>○暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>一人ひとりの生活リズムを把握すると共に、行動や小さな動作から感じ取り全体像の把握に努め、有する能力を活かせるように努めている。</p>		
26	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>アセスメント時には主治医意見書を参考にしたり、本人、家族、職員の意見や思いを取り入れ、介護計画を作成している。又、状態変化時には介護計画の見直しを行っている。</p>		
27	<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>個別に日々の記録を行い、情報を共有出来る様にしており、気づきがあった際には、介護計画に反映出来る様になっている。</p>		
28	<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>本人の状況に応じて、通院など必要な支援を行なうようにしている。</p>		
29	<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>警察、消防、周辺地域への働きかけを行い、地域で安心して暮らしていける様に努めている。</p>		

鹿児島県 グループホームみぞべ

30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>入所前にかかりつけ医の確認を行い、定期的に受診する様になっている。</p>		
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>健康管理については、看護師と相談しながら随時、医療との連携を図る様になっている。</p>	/	/
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院した場合は、必ず退院後の話し合いをしている。</p>	/	/
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化に伴うケアについては、事業所が対応し得る最大のケアについて説明を行っている。又、必要に応じて同意書をもらう様になっている。</p>		
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>緊急時対応についてマニュアルを整備し、周知徹底を図ると共に勉強会を実施し、体験取得する様になっている。</p>	/	/

35	<p>13</p> <p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>マニュアルを作成し定期的に避難訓練実施している。地域の方も災害時等の対策に関心を持たれている為に、運営推進会議の時等に情報提供している。</p>		
<p><b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b></p>				
36	<p>14</p> <p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>誘導の声かけや言葉かけ等気をつけて行うようにしており、個人記録の取り扱いも注意する様にしている。又、ミーティング時等で対応の仕方等話し合う様にしている。</p>		
37	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>利用者、各々の特性や個性に合わせて笑顔や言動を引き出せる様な言葉かけや雰囲気作りを行い利用者に選択してもらえる様にしている。</p>	/	/
38	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>一人ひとりの体調に気をつけながら、その時の本人の気持ちを尊重して、その方のペースで支援している。</p>	/	/
39	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している</p>	<p>自分で選べる利用者には自分で選んでもらい、困難な方へはその人らしさが出る様に支援している。散髪もその人らしさが出る様な髪型にしており希望があれば理美容院の利用ができる。</p>	/	/

鹿児島県 グループホームみぞべ

40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>職員も利用者と同じテーブルと一緒に食べたり、会話しながらさりげなくサポートしている。</p>		
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事摂取量は毎食確認し、記録に残している。又、水分も常に気をつけ補給している。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>毎食後の口腔ケアの声かけや見守り介助を行っている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている</p>	<p>日中、夜間共に排泄記録表を付け、各々の排尿間隔に応じた誘導を行っている。</p>		
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>食事の際など食物繊維を含む献立を提供したり、適度に運動を行って頂く様にしている。</p>		

鹿児島県 グループホームみぞべ

45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している</p>	<p>利用者各々のペースに合わせてゆっくり入浴できる様にしている。また、シャワー浴は必要時希望時にはいつでも行っている。</p>		
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>一人ひとりの睡眠パターンを把握し、夜間良眠できる様に日中は散歩や外気浴、外出、レクリエーション等行っている。又、疲労感見られた際等、随時休まれるように声かけている。</p>	/	/
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>医師の指示どおり服用できる様1回分ずつ名前を書き分けて管理している。現在服用中の文献を一人分ずつファイルに綴じており、状態変化時には副作用との関連も検討する様にしている。</p>	/	/
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>下膳や掃除、洗濯物たたみ等できる役割を見つけ、楽しみを持ち過ごせる様に支援している。</p>	/	/
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>定期的な散歩や外気浴など外に出る機会を多く持つようにしている。</p>		

鹿児島県 グループホームみぞべ

50	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>力量に応じて金銭管理を本人が行えるような支援をしている。</p>		
51	<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>希望があればいつでも使用できる様にしている。又、家族にもいつでも電話して下さいとお願いしている。</p>		
52	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>季節を感じられる様な草花やディスプレイを飾り、台所用品も家庭的な物を使用している。冬場はたたみ部屋にコタツを出し、季節を感じながらくつろげる様な雰囲気を作っている。</p>		
53	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>特別に居場所は作ってないが、ソファや食堂テーブルにて自由に過ごしてもらっている。</p>		
54	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入所時や面会時等に自宅で使い慣れた物を持って来て貰うよう説明し、持参されたものを使う様にしている。</p>		



55	<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>一人ひとりの生活暦を把握し、暮らしの中で能力が発揮できる様に支援している。又利用者の状態に合わせて手すりやベッドの位置など居住関係が適しているか見直し安全確保できる様に配慮し環境整備にも気をつける様にしている。</p>		
----	--	--	--	--

## V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

## 2 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム みぞべ

作成日 平成 22年 5月 24日

### 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	定期的に避難訓練を行っているが職員にも不安があり研修等の積み重ねが必要	地域の方々へも協力を頂きながらスムーズに避難誘導の訓練を行い職員も自信を持ち行うことができる。	避難訓練や防災に関する研修を定期的に行う。近隣の方々の協力を仰ぎながら訓練に参加して頂いたり夜間の連絡体制を整備していく。	1～2年間
2	10	家族の意見をもっと引き出しサービスの向上に役立てるようにする。	家族の方が意見をもっと伝える事ができるようにする。	家族会の時などにアンケートを取り意向を引き出せるようにする。又、面会時にも要望を確認していく。	1年間
3	4	運営推進会議のメンバーが固定化されており幅広い立場の方々をメンバーに加えていく。	地域の派出所や民生委員、消防団など議題内容に応じて参加して頂けるようにする。	派出所や消防団の方など参加していただける様に依頼を行う。外部のメンバーを増やす事によりサービスの向上につながる会議の場となるようにする。	1年間
4	33	看取りの指針についてニーズを汲み取りながら対応できる体制を整えていく必要がある。	重度化に伴い看取りに関するニーズがある時は利用者、家族の意向を汲み取りながら体制を整える事ができる様にする。	職員の研修の場を設けて、ニーズに対応できる体制作りを行っていく。	2～3年間
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。